

熊本では163年ぶり 宇宙の奇跡 金環日食

5月21日、月が太陽を覆う「金環日食」が全国各地で観測され、熊本県では163年ぶりの観測となる金環日食が県南地方で観測されました。山都町は、金環日食ではありませんが、それでも太陽の90%以上を月が覆う部分日食が観測できる予想でした。

清和高原天文台から見た日食（午前7時30分ごろ）。

清和高原天文台では、21日早朝から観測会を開催。県内各地から多くの方が参加してその瞬間を待ちました。

ところが、午前7時の清和高原天文台上空には灰色の雲。日食の観測に暗雲が立ちこめます。すでに日食が始まっている時間。なかなか雲から顔を出さない太陽と月。参加者の中には、あきらめて会場を後にする方も・・・。

しかし、食の最大を迎える7時25分頃、空が徐々に明るくなりはじめました。そして、薄雲の向こうに、月にその大部分を覆われた太陽がその姿を現しました。このときを待ち続けた会場は、歓声であふれました。その後も太陽は、まるでじらすように、雲の切れ間から時おりその姿を現しました。

次回、熊本でこの金環日食が観測できるのは、2312年（300年後）だそうです。

清和高原天文台の出前講座

この世紀の天文ショーを前に清和小学校では、5月14日、特別授業が行われました。

講師は清和高原天文台の折尾台長と甲斐さん。4年生から6年生38人に、地球と太陽の距離が、地球と月の距離の400倍もあることによって起こる現象であることや、日食によって気温が下がることなど、金環日食の起こる仕組みなどをボールや模型などを使ってわかりやすく解説しました。



その後、簡易プラネタリウムが体育館ステージに設けられ、夜空の星について講義が行われました。



雲の切れ間から姿を現した日食に歓声をあげる参加者。このあと一斉に日食グラスを目当てにじっくり観察していました。

高岡健悟くん・村上芳樹くん（高森高陸上部） 4×400mリレーで総体6位入賞



高岡健悟くん（左）と村上芳樹くん（右）

6月1日から4日にかけて県民総合運動公園陸上競技場で行われた、県高校総体陸上競技選手権で、高森高陸上部が4×400mで6位入賞を果たしました（タイムは3分20秒48）。このリレーに、村上芳樹くん（郷野原）と高岡健悟くん（滝上）が第3走者と第4走者で出場し、入賞に大きく貢献しました。

高森高校は、6月14日に宮崎市で開催された南九州大会に県代表として出場しました。6位入賞すればインターハイ出場でしたが、0.3秒差で7位となり、インターハイ出場はなりませんでした。



矢部高校日本拳法部 全国へ 県高校総合体育大会で優勝 2連覇

6月2日から3日にかけて、熊本武道館で行われた県高校総体日本拳法大会で、今年も矢部高校が団体戦で優勝、2連覇を果たしました。個人戦では、西山文哉くんが優勝、下竹拓也くんが2位に入り、矢部高が上位を独占、個人戦に出場した5人全員が全国大会への切符を手に入れました。

日本拳法部はすべて2年生。3月に行われた全国選抜大会ではベスト8に入り、調子は上向きでした。しかし、部員6人のうち2人が大会直前にケガをするという苦しい状況でした。「戦力的に厳しいと感じていたが、この苦しい状況が部員の気持ちをひとつにして、勝ち抜いたと感じています。」と部を率いる濱雄大監督は話しました。

部員は今、8月4日から愛媛県で開催される全国大会に向け練習を重ねています。主将の小田亮太くんは「(総体は) チーム一丸となり勝つことができた。全国大会となると雰囲気も変わり、レベルも格段に上がるので、練習をしっかりとって、先輩が残した成績(全国大会3位)を超えたい。」と燃えています。

今年も山都町が優勝 二輪車安全運転熊本大会

6月17日、県免許センターで開催された二輪車安全運転熊本大会で、矢部高校二輪車競技部と矢部ツーリングクラブ(田中秀穂会長)で結成されたチームが、今年も圧倒的な技術の差を見せて優勝。個人成績でも、輝かしい成績を残しました。

この結果を受け、高校生クラス優勝の有働哲也さんと、一般Bクラス優勝の本田和幸さんが、8月4日から三重県の鈴鹿サーキットで行われる全国大会に県の代表として出場します。



有働哲也さん



本田和幸さん



成績 (町関係・敬称略)

団体 優勝 山都A

個人 高校生クラス 優勝 有働哲也 2位 西 真人
一般A(普通二輪) 3位 村上恭介

女性クラス 3位 山田朋代
一般B(大型二輪) 優勝 本田和幸